

JTA通信 第1号

発行日 : 2025年5月9日

こんにちは、高本です。

今回は実験的にニュースレター風にやってみようと思います。

これまでPDFにして配信していたのはレポートという設定でした。一つのコンセプトのもとに一万字前後ぐらいの初めから終わりまでつながったコンテンツでした。

今回はニュースレターということで、最近更新した記事へのちょっとしたコメント、最近考えてたことややってたこと、長すぎたり短すぎたりしてブログ記事には向いてない話などをお送りします。

ちなみに JTA は「人生、ちゃんと、遊ぶ」です。次回は変わってるかもしれませんが、次回がないかもしれません。

目次

- ・4月に更新した記事の振り返り
- ・テスト勉強場で交換されるエネルギー
- ・人の頼みに乗っかる面白さについて

それでは早速！

4月に更新した記事の振り返り

まずは先月更新した記事を軽く振り返っておきます。

4/1

[【全天候型生活】変わらない安定よりも環境や気分の変化を取り込んだ全体としての安定という話](#)

4/3

[やりたいことが分からない読書録3『マンガ 老荘の思想』](#)

4/16

[図太いと思っ込んでるだけの織細さんパターンもあるのでは、という話](#)

4/17

[【価値 = 電荷仮説】情報発信とは自分にとっての電場を構築することである](#)

4/19

[将来やりたいことを今日できる形で始めるときの大事なポイントや考え方について](#)

4/22

科学と変な向き合い方をしないためにその源流を含んだ哲学史を見ていくのが大事ですよ、という考え方が面白い

4/25

学術研究と個人の体験や思考に基づく仮説の間のちょうどいいバランスとは

4/29

やりたいことが分からない読書録4『大人はもっと遊びなさい 仕事と人生を変えるオフタイムの過ごし方』成毛眞

【なぜ哲学史なのか】

22日と25日の記事は、哲学史とか科学とどう向き合うかという話でした。なんで急にこんな話になったのかと言いますと、以前からちょいちょい書いたりしてる通り僕は割とこの世界がどうなっているのか知りたいと思ってるんですね、そんな真理的なものがあるのかは知りませんが。それは子供の頃に宇宙に興味を持った時からつながってるのだと思いますが、結構今でも「結局今生きてるこの場所とか人間ってなんなん」というのがふと気になったりします。

で、そのたびに適当に考えたり調べたりすると、南方熊楠が南方曼荼羅の中でそんな話をしてるわけですね。昔から知ってはいたのですが、ちょうど「意識と量子力学が～」みたいなスピ系の話もどういう感じなのか知りたいなと思って色々見てたのです。でもそうすると当然無意識の話とかも絡んできます。

ってなるとユングやフロイトがどんな流れでそんな概念を考えるようになったのか、なども含めてしっかり順番に見ていかないと、足元ぐらぐらで何にも分からないままです。それを見ていこうと思えば、「彼らがどんな思想家の発想をもとにしたのか」まで遡っていくことになり、結局古代ギリシャとかまで戻ることになります。

もちろん全てを分からないといけないわけではありませんが、というかそんなことしてられないんですがw、大まかな流れぐらいいは抑えておかないと、先に進むうにも引掛かりが多すぎてどうにもなりません。

というわけで、哲学史を見ていく動機が生まれます。科学についても、そういうスピ系の話と科学をちゃんと分けて考えるにも、「科学とは何か」「科学は全事物の中でどの領域を扱ってるのか」など丁寧に整理し直しておきたいということで、ってなるとこれまた結構なところまで遡っていくことになる。

本当に全部やろうと思うと一生できてしまいますが、のんびり一生やろうとも思ってるので、というか急に思ったわけでもなくて、今までより多少一定のリズムを進めていこうと思いだめたという具合です。また面白い話があればちょこちょこ共有していこうと思っております。

【やりたいことが分からない読書録】

読書録については、数年前、これからどうしていったらいいのかなあって思ってた時にいろいろ本を読んでみたりしたんですが、中にはどこかのサイトで紹介やおすすめされていた本もありました。でもそういった本がことごとくつまらなかったのです。それは当然で、その人と僕とでは考える問題の焦点が違っています。

もちろん僕が特別と言ってるのではなくw、同じフレーズや概念で表現されていても「そのどこにどう躓いているのか」が人それぞれ違うということです。つまり漠然と「これおもしろいで～」という紹介のされ方ではなく、もう少し内容にフォーカスしたものであっても、書き手と読み手の文脈のずれがあるわけですね。これをなくそうと思えば、書き手が自分の立場をちゃんと明確に表明するしかありません。

どんな状況で、どんなことを考えていて、そもそもそいつはどんな人間で、という前提を確認してもらってからでないと、同じ本を読んでも同じような感情にはなれませんよね。で、僕はそのときやりたいことが分からないということだったので、その問題意識の人間がその本に触れたときに何を感じたのか、という視点でまとめていこうと思いました。

もともと、これまで読んだりした本を紹介したいとは考えていました。似たような状況の人には結構な確率で参考になるはずだからです。ただ昔読んだのをいまさら内容を思い出してまとめるのはしんどいです。その内容自体には今はそれほど興味なかったりするので。

なので、「人生の方向性ニュアンスで迷走中の人間にとって、その本がどんな価値を持っていたのか、そこから数年経った今も含めてどう影響してきているのか」にフォーカスして書いていくことにしました。大して印象に残ることなく完全に忘れてるのが9割5分以上なので、今改めて考えて頭に出てきたタイトルの時点で面白さも含めた一定の価値水準は満たしてるはずですw

勢いで始めたものの落としどころがふわふわしていてあまり更新できてなかったんですが、全25回をいったんのめどにすることしまして、今15まで書いてて6月序盤ぐらいには出揃う予定なので、また興味ある回があれば覗いてみてください。

【価値＝電荷仮説】

いくつか新しいコンセプトが生まれていて、個人的には「価値＝電荷仮説」はかなり応用が効くと思っています。これまでも重力場に当てはめて、「自分が場に影響を与えることで空間がゆがみ、それによってその場にいる人に影響が生まれる」という話をしたりしてたんですが、それがもうちょいまとまった感じの内容でしょうか。

ポイントは、場ごとに交換される電荷は違っているってことなんですね。電場なら電荷で磁場なら磁荷で重力場なら質量です。この○○荷がその場で交換されつつ、さらにその場に影響を及ぼします。これが価値の正体なのではってことなんですね。

つまり、空間ごとに何が価値を持つかは異なっている。資本主義であればお金になるわけですが、逆に言えば自分が持っているものが価値として交換される場を作るという発想も出来て、それが情報発信ってことになります。そうやって取り組んでいくと面白いのではって話でございました。

【全天候型生活】

習慣化とかの文脈で、「毎日同じリズムで過ごすのがいい」ということがよく言われます。でも人は機械じゃないので全く同じは難しいわけです。で、もちろんその中でなるべく安定させられるように各自工夫していくわけですが、気持ちが揺れ動くタイミングもあります。その時に、「無理やり同じで頑張る」以外にも、「その時々に合わせてルーティーンを持っておく」という発想も出来ます。

これは記事でも書いてるんですが、昔株を一回やってみようと思ったときにいろいろ本読んでたら、レイダリオという人が景気サイクルのどんな時にでも安定するようになってことで「オールシーズンズポートフォリオ」というコンセプトを打ち出してたんですね。で、それを自分たちの生活も同じ

やんってことが言いたかっただけの記事なのですw 悪い方を排除していくのではなくて、それを最初から織り込んで、その上でどう対処するか用意しておくイメージです。

先月の記事の振り返り終了。

ここから「テスト勉強場で交換されるエネルギー」と「人の頼みに乗っかる面白さ」の短長2つのお話です。

テスト勉強場で交換されるエネルギー

場とレイヤーの感覚が面白いです。縁起というのは「個」ではなく、その対象同士の関係に着目する発想なんですけど、そこに場の概念が大きくかかわってるんですね。

例えば、量子力学は一つ一つの素粒子に着目して、その運動を考える分野です。ただ、実際には無限個の素粒子で現実が成り立っているわけなので、それを扱える必要があります。でも一個一個を個別に考えるのと同じように無限個を考えようとすると、とんでもない方程式になってしまいます。というわけで、個別の粒子ではなく、それが生まれる「場」に注目しようというのが、「場の量子論」と呼ばれる分野です。

つまり、2つの素粒子が関係しあう時に個々の粒子で見ずに、場がまずあってそこから生まれた粒子が関係しあう、と考えます。つながりを生む「場」の方に重きを置く発想です。

関係性ごとに異なる場の重なりに生きている

で、いったん物理の話は置いて、例えば家族で考えると、自分と父や自分と母のような関係があり、また父と母の関係があり、そういう関係がそこから生まれてくるものを「場」というわけで、ここでは「家族場」ということになる。

これは別に同じ空間にいらなくても各々自分の生活をしていても家族というつながりが維持されるのだから、これを「家族全員が抽象的な一つの場の上に生きている」と見ることができる。当然家族に限らず会社の同僚がいれば、そこでの人間関係やイベントはすべて「同僚場」の上で起きるということになる。

となると、人はいろんな場の重なりに生きてるわけで、そしてその場に特有のコミュニケーションが交わされる。経済もその一つで、つまりそれが「コンビニの客と店員の経済」なのか「テスト勉強の経済」なのかということです。

一緒にテスト勉強するという場では何が電荷とみなされるか

テスト勉強の経済というのは、「学生時代にテスト期間一緒に勉強して色々質問に答えたりしていたら、テスト終わりにラーメンや鍋をおごってくれた一連の現象」をひっくり返して勝手に今日から呼ぶことにしたものです。ここには、本当はもっと複雑かもしれないがあえて安易に言ってみれば、「テストにまつわる質問とそれに対する回答」というコミュニケーションがあり、また別のところで、「ラーメンとお金を交換し」、「そのラーメンを僕にくれた」という合計3つのコミュニケーションがあります。

ラーメン屋との、お金を媒介としたコミュニケーションは資本主義経済ですが、残りの2つのコミュニケーションは、「一緒に勉強した数人と僕との関係が生じている場」でこそ成立するコミュニケーションということになります。右隣の知らない人に急にラーメンをあげたりするわけがなければ、左隣の人に物理の話をしてきもいだけなので。そうすると、この場ではそんなコミュニケーションが不自然でないものとして成立してるわけですね。

今回はたまたまお金も含むやり取りが行われたので経済という言い方ができますが、これをもう一つ抽象度を上げてエネルギーとして捉えると、この場では「一緒に勉強したこと、また質問に答えたり教えあったりしたこと」がエネルギーとして認められてることになります。そこではそれが価値を持ち、電荷として成立するのです。だからお金というエネルギーの流れに、平気な顔して入ってこれてるわけですね。

これは人と人の関係が生じる場ごとに、交換される電荷、つまりやり取りされる価値が限定されてることの一例です。だから逆に「自分が蓄えている何かが価値として認められる場を構築していく」というのが情報発信で、これがさっきの記事で扱っている話ということでした。

人の頼みに乗っかる面白さについて

お次は最近思ってることを少し話してみたいと思います。

人に頼まれたことをやるのがいい感じです。前々から誘いに乗っていく形で蛇行しながら進んでいくのが面白いってよく言ってたと思うんですが、この面白さの正体がちょっとわかりまして。というのも、誘いに乗ってその人から見ればありがたいなわけです。望みであり頼みです。だからイエスって言うのももちろん嬉しくなります。喜んでくれます。だから何もないところからこちらが働きかけていくときよりも流れやすいってことなんですね。

その人が望んでることなので、何もないところで自分一人で同じ行為だけをする場合と比べて、喜んでくれる度合いが桁違いです。勝手にやるときは別にその時点で直接誰かのためになるってわけではありませんよね。でもそれは自分がやりたくてやるだけなので別にそれでいいんですが、また別の話として、人のお願いに何も考えずにフワッと乗っかってみる、という動き方もあるわけです。

頼まれてやるのでめっちゃ感謝されます、同じことしても喜ばせることのできる度合いがかなり違ってきます。となると、なるべく自分がやりたいことが誰かが望んでる形になってるといいですね。「自分はそれをやりたいと思っていて、その人はそれをやってほしいと思っている」、こうなればお互いに望んでることなので、スラーっとことが運び展開していきます。

でもここで、そういう状況ってあんまりありません。そんな都合のいいことがあるのか、あったとしてもたまたまじゃないかと。でもここが工夫しがいのある面白い部分ですね。どうやって今の状況からやりたいことを実現していくのか、ということです。

ゼロから畑作業にたどり着く方法

小学生の時の田植とか芋ほりの経験から多分来てるんですが、かなり昔から畑をやりたいと思っていて、でも場所がないとできないのでどうしようかと思っていたんですが、ネットで探してみると、市民農園というのがあったと知りました。近所で月額いくらとかで自分のスペースを借りられ

て、そこで自由にしていと。でも見たところ手ごろなスペースはかなり人気でほぼ空きがなかったんですね。家から一番近いところは入会金+レクチャーとかも含まれていてなんかややこしい、ちょっと試しにやってみるにはだるすぎる。

僕はこういうのは軽やかさを重視します、さっとやってみたくので。で、もう少し家から離れた範囲で、でもチャリで行けないこともないぐらいに広げて探してみると貸し出しをしてる場所自体はいくつかあったんですが、ほぼ埋まってる、お試しにはまあまあでかめのところしか空いてませんでした。もっと手軽に始められる道があるはずだと思ってもう少し探してみました。

そうすると、がつつり農業というわけではないんですが、大きく外れてはないぐらいの感じで、バイトを募集してる場所がありまして、しかも家からかなり近い。ということで、しばらくそこに潜入してみようかと思いました。で、応募してみたんですが、年度の変わり目でもう人が集まったらしくて、断念しました。ちなみに自分で家でやるのもありますが、それはいつでもできるのですぐやってみるとして、最初は多少誰かに聞きながらの方がいいと思ってました。

で、またしばらく探していると、畑の手伝いの募集を見つけました。内容はよくわからなかったんですが、なんかおもしろそうだったので、というか、一回自分でやってみただけなので速攻連絡しまして、三日後ぐらいに行ってきました。

そこではとりあえず雑草が生い茂ってるので、それを引き抜く感じで働いてきました。それ自体は別にだからと言って何もないんですが、一回現場に行ってやってみるだけで、かなり臨場感が上がるわけですね。こんな感じで野菜育てたりしてるのかと。

流れでまた別の手伝いを募集してる場所を見つけたので、その二日後ぐらいにまた行ってきました。そっちはもうちょっと本格的で、二時間半ぐらいがつつり、クワとスコップで畝を整えたりしました。面白かったのが、かなり空気の流れとかが大事なようで、そもそも畝もそのままではただ空気が流れてしまうところを、土の壁を作ることで、そこにぶつかり土の中まで空気が通っていい感じになるらしいんですね、しかもカチカチの土も微生物とか植物の生命活動で耕されて、人がやるよりもかなり楽で効果的らしいのです。

二回手伝わせてもらっただけのド素人の感想としては、畑も結構目に見えない部分の感覚が大事というか、そこを気にする形で取り組むと面白いような気がしてます。ブログ的ニュアンスで言えば感覚とか感性を磨く、ということにかなり関係しそうです。

畑をやりたいのであって農場が欲しいのではない

で、何の話をしてたのかというと、畑は畑で面白かったんですが、最近ちょっとやってみたくなくて今の状況ですぐに出来る形を探してみて、一週間ぐらいで結構ことが進んだんですね。やりたいことがあったときに、準備が整ってからじゃなくて今できる形を探せば結構なんとでもなるかと再確認しました。そしてそうしたい状態を体現できるように、めっちゃ必死で持っていこうとしてる時間それ自体が面白い。これは嫌なことを、でもやらないといけないから頑張るのではなくて、今一番やりたいことを今すぐできるやり方を探すということです。

ここの感覚がむずいんですが、理想的な状態をそのままやるのは難しくても、「それをやってる自分としてその時間を過ごす」ことは可能です。畑をやりたいのであって、広大な農場が欲しいのではありません。「畑作業をしている、という時間の過ごし方」を望んでいるわけなので、土地を持っていようがないからうが、自分のプロジェクトだろうが人の手伝いだろうが、関係ないのです。

目的をすり替えて言い訳してるわけではないですよw 自分の内側で「畑をしている」という体感になってさえいれば、外の環境はどんなものでもいいってことです。そっちは後からついてくるものです。つまり、分かりやすく言えばあれです、一生成功者を目指して不足感にさいなまれてるのか、すでに成功している状態だと思ってるのか、みたいな話です。成功者ってなんやねんという話ではありますが例えとしてw

だからここまでの話としては、今自分がやりたいことを今できる形で実現できる方法を探っていくのがよくて、しかもそれを考える時間がまず面白い、ということ。で、その時は結局何をやりたいのか、ということをも極めて具体的に考える必要があります。

漠然と「やりたいことができるようになりたい」とか「自由な生活を」とかじゃなく、「じゃあ自由にしたいよと言われたときにお前は何をやるねん」ということが画として見えているか。

だってそれがあれば、もう今できる形でやっていけばいいわけです。

僕は森を買って家を作ってみんな来れるようにとかしたら面白いなとか思ったりもするので、昔から思い出した時に森が売りに出されてるサイトとか見てるんですね、だいたいこんなもんかと。細かい手続きとかは何も知りませんけども。

学校みたいにしても面白いかなとも思ってるので廃校を見てたんですが、これも地域住民のためになる形で使うのであれば補助金が出ます、とかあったりするんでそういうのも面白そうだなとか。そのときには畑という実習も含まれてる予定というか設定なので、今畑に興味があるということなんですけども。

そういう感じで、今自分ができる形を探していくとそれ自体が今のやりたいことになったりして面白いです。それを考えてる過程がまず面白いということです。実際は面白いとかだけでもなく、そこからもう始まっているんですけどね。

頼まれごとという波乗り

で、もう一つは人が望んでることをするのが、波乗りとしては一番楽で気持ちいいですよという話。こっちで必死で考えてあれこれ悩んでるよりも、シンプルに人に頼まれたことを愚直にやっていると面白いです。

夏目漱石も言うように、人のためにやったことが自分の豊かさになるわけですね。人が喜んだ分が給料になって生活できて自分の喜びになるので。結局人のためにどんだけやっているのかということで、まあそういう損得勘定だけでやるわけでもないんですが、分かりやすく言うとそうとも言えます。

で、一番直接的なのは目の前の一人が喜んでくれることなわけですよ。例えば「自己実現と他者貢献が～」という話をしてたりしますが、それってどういうことだったかと言えば、自分のやりたいことが、それが一個人の中で完結した閉じたものじゃなくて、社会に開かれた形で、他者と接点を共有する形でやっていきたい、という話でした。つまり、好き勝手やって楽しいで終わりじゃなくて、それが人に喜ばれる、ということも考えていきたい、という話だったわけです。それはもう目の前のその人に頼まれてお願いされたことをやるのが一番です。

自分にとっても面白そうと思えることならなおさらですが、でも頼まれごとは全部やっていくほうが良いと思ってます。そこはもう確定させておくぐらいで。よくある言い方をすれば、自分ができることしか頼まれません。僕に作曲の手伝いをしてくれとかは頼まれなくて、だからもちろんちゃ

んとその人なりに適性を見てます。能力に関しては頼まれた時点でその資格があるってことです。

The Call to Adventure としての頼まれごと

もう一つ流れの観点から見ると、人からの頼まれごとに乗っかると、自分の意志では起こせない小さな流れが起きると言えます。もちろん内容による部分もありますが、自分の世界、思考空間の外から手が伸びてくる感じというか、だんだん澱み濁っていく今の日常空間の外に出るきっかけとも言えます。というかそう考える方が面白いですw

これもよくあるので言えば、神話の法則の「冒険の誘い」というやつです。初めは主人公の普段の暮らしからスタートしますが、そこに冒険に出ざるを得ないきっかけが訪れるというものです。デスノートなら空からノートが落ちてくる場所です。頼まれごとというのは、もうそれです。そう思うのがめっちゃおもしろいです。

内容とかじゃなくて、それは冒険に出るきっかけをくれてるのです。冒険に出たいのか出たくないのか、出たほうがこれも面白いに決まっています。ずっと日常パートの人生として死んでいきたいとは思ってませんので。

だから頼まれごとは大チャンスです。普通に生きてるところからそういうきっかけが来たら「いい流れが始まりそう」と思ってうれしくなります。だから今の興味に関連した手伝いやお願いをされるのは、最大級にラッキーなのです。

と言っても本当はそれをやりたいと思ってるからそのセンサーに引っ掛かるわけで、ラッキーとして片づけるのも違っていると僕は思っていますが、かなり表面的に捉えればラッキーではあります。

だから「ありがとうございます」と言って飛び乗っていくわけです。そうするとお互いにありがとうございますなので、そこには気持ちいい空気が生まれますよね。こういうのが好きです。こういうところから始まる次の物語がこれまた面白いです。

そこを通過した人が「嬉しい」になるフィルターとして

結局のところ、こういう言い方ができます、人はエネルギー増幅フィルターでいいのです。フィルターとして漂い、自然に従い求めてる人の所に向かっていく、ゼロから何かしようとするよりも喜ばれる度合いが大きい、だからそいつは媒介品で良くて、エネルギー増幅器みたいな立ち位置でよくて、そいつ自身という容器をエネルギーや喜びが通り抜けていく、土をもっこりさせて畝を作ることで空気の流れがよくなるように、通常ならサーッと通り抜ける空気を取り込み食物が育ちそれがまた人のカロリーとなるように、そいつがいることで空気の流れが変わり、それを取り込んで思考が始まり行動になり別の形のエネルギーとして放出され、目の前の人の喜びとして次の循環につながっていく、そうやって空気中を漂いそこにぶつかり通り抜ける人が通過前と比べて嬉しいになっている、そんなフィルターへの変身の術としての頼まれごと。

そんな話でございました。

おわりに

というわけで、今回はニュースレターという形でお送りしました。いかがだったでしょうか。次回は2週間後を予定してます。また感想などあれば教えてください、質問や要望なども食べ気味に返信してますのでお気軽に！

それでは、ここまでお読みいただきありがとうございました！